

「母の日【花まつり】フェスティバル」企画

日時 平成7年5月13日（第2土曜日）午前11時～午後3時頃まで

会場 東灘区魚崎 浄土宗西福寺境内地

企画 全国浄土宗青年会救援センター災害救援本部（担当近畿ブロック浄土宗青年会）

全浄青事務局・近ブロ各々教区及び事務局でそれぞれ企画し活動する。

全浄青事務局（あてものの屋台）

近ブロ事務局（被災によりお亡くなりになられた諸霊の個別ご回向）

滋賀浄青（花まつり法要、お話、ビンゴゲーム）

京都浄青（おでん、うおそうめんの屋台）

奈良浄青（フランクフルト鉄板焼きの屋台）

和歌山浄青（母の日花束プレゼント、花束300～350本用意、カスミ草、スターチス、カーネーション、ガーベラ）

兵庫浄青（テント、テーブル、椅子、コンロなどのレンタル、汁物の炊き出し、設営人集めど）

大阪浄青（飲み物の屋台、ビール、ジュース、コーヒー、紅茶、食堂テント設営など）

知恩院有志（たこ焼きの屋台）

☆本部で食べ物、飲み物、花束などの数量分の交換券を発行する。

☆全て無料である。

☆5月10日ごろポスター、チラシをまく。

スケジュール表

AM 9 : 00	各教区代表集合時間（一応） 滋賀浄青の会場作り、和歌山浄青の花束作りの手伝い。
10 : 00	各々の屋台準備
11 : 00	フェスティバル開会式 11 : 00 屋台開店
12 : 00	花まつり法要開始 12 : 00 人形劇とゲーム 12 : 20

	(文短幼年文学クラブ「ピノキオ」)
PM 1 : 00	ビンゴゲーム開始 1 : 00
3 : 00	フェスティバル閉会式 3 : 00 あとかたづけ 3 : 10 全て終わり 4 : 00

(c)1997近畿ブロック浄土宗青年会救援委員会ボランティア実行委員会"JIVA"(デジタル化：神戸大学附属図書館)

- 5月20日（土） 灘区青陽東養護学校 復興祭『ミニ運動会と避難所の集い』
内容：体操、玉入れ、綱引き、ボール運び、カラオケ、ビンゴゲーム、おでん、焼き鳥等
- 22日（月） 神戸組 東極楽寺 追悼写経会（写経と読経回向）
- 6月8日（木） 武崎組 西安寺復興屋台村設営（奈良浄青中心）
内容：お好み焼き、焼きそば、あてもの、焼きおにぎり等
- 16日（金） 第2回理事会・第3回救援本部委員会（大阪教区教務所）
- 17日（土） 神戸組 東極楽寺 追悼写経会
- 19日（月） 仮設住宅向け日用品の提供（京都浄青中心）
- 25日（日） 仮設住宅向け日用品の提供（京都浄青中心）
- 7月12日（水） 神戸組 東極楽寺 追悼写経会
- 29日（土） 神戸組 東極楽寺 追悼写経会
武崎組 西蓮寺『和順会復興フェスティバル』（兵庫浄青中心）
内容：追善回向、ゲーム、屋台設営等

ちょっと時期は早いけど、こんな炊き出しもあっていいんじゃない

平成7年6月8日(木) 3時開始です

午後5時

OPEN

主な出店予定

焼きそば
わたがし
みたらし
あてもの
ジュース
お好み焼

西安寺が夜店風村に...

おとうさんも
子供さんも
みんなで来てね

えー、8時までやってるよ～

場所 西宮市産所町9-12 西安寺にて 浄土宗奈良教区青年会主催



震災から約3ヶ月後、新聞で次の様な記事を読みました。

避難所の冷たい廊下で、年輩の男性が御骨つぼをただ抱いたまま、どうしてよいのか解からない.....と話されているというものでした。当時、被災地の御寺院・御住職は亡き方々の供養に、そして御遺族のケアにと大変御苦労の日々を送られた事と思います。

しかし、菩提寺と檀家という関係を持たぬ方々も当然多く、前述の男性もその一人ではなかったかと思われる。

そこで、私達青年僧の活動として、“追悼写経の会”を開催してみました。幸い朝日新聞の震災記事担当者に相談したところ、今必要な活動と賛同して下さい、紙面が与えられました。5月～7月にかけて、計6回開催し、案内は朝日新聞、神戸新聞等に載せていただいたり、避難所に案内書を貼ったりしました。

参加者は被災された方、御家族を亡くされた方、被災はしていないが何かと追悼の行事に参加したかったと言う方々、というように様々でありました。また遠方の為、参加は出来ないが、家で写経したものを郵送するので、奉納して欲しいという方もおられました。

内容は、一枚起請文・般若心経の写経、または阿弥陀仏の写仏を私達僧侶と共にしていただき、そのあと茶話会といたしました。茶話会では、会場東極楽寺様の小林孝之上人が、僧として、また被害者として参加者に話しかけられました。やはりその時が参加者も心を開いて、色々な会話をされていたように思います。そして、私も参加者より幾つかのお話を伺いましたが、印象に残っているのは、

「新聞を見て、こうしてお寺に来ようと思える自分は、まだ救われているほうなのかもしれません。御家族・愛する人を亡くされ、本当に心が深くしずんでおられる人は、ずっと家に閉じこもりがちになっています。私のまわりにも、そういう人が何人かいるんです。次の写経会には誘い出して、こういう場で一緒に仏様に手を合わす事が出来れば.....と思っています。」

というお話でした。

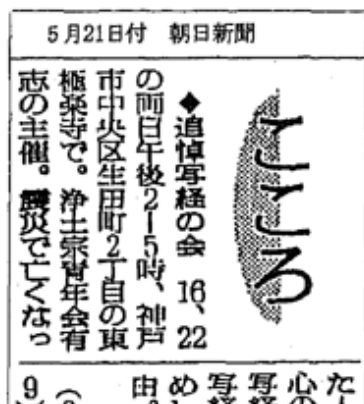
私は写経の会が回数を重ねるにつれ、本当にそのお話しの通りであろうと感じました。そして実際に、苦しんでおられる方のそばに立てるのは、やはり前の話の通り身近な人や友人であろうとも思います。ただ、その様に人と人とが寄りそって、助け合おうとされる時に、私達僧侶の側もその受け口となるものを、しっかり用意しておく事が大切と思います。

宗派を越え、暖かくお迎えできるものが必ず求められるはずです。

今回、近プロ浄青で行われた救済活動においても、その役割を果たしたものが数多く有ったと思います。またその情報をテレビや新聞、そして将来はパソコン通信等も通して、発信する必要も感じます。

まとめ無く書きましたが、今振り返り思う事は以上です。それから7月の第6回目で閉会としました理由は、8月のお盆（初盆）を控えて、被災地の各御寺院・各会で供養や催しが数多く予定されていたので、私達の活動は7月末までと致しました。（森）

★ 5月21日付 朝日新聞 ★



★

西宮市西安寺様境内にて、奈良浄青が中心となり兵庫浄青と共に、子供のための（夏祭り）夜店屋台を開く。20数名の奈良浄青会員が、トラックやワゴン車など車数台を連ねて教安寺様から出発。

前日からの綿密な打合せと準備が効を奏し、近プロ浄青の（母の日フェスティバル）でのノウハウが活用され、天候不順にもかかわらず大盛況のうちに幕を閉じた。

公たのめい福を祈り、
平穩をとり戻すための
聖の会を開く。参加者の
半は後日、同寺でおつと
し奉納される。参加自
無料。
連絡先は同会の森さん
0702・22・337

大勢の親子に、綿菓子、かき氷、焼きそば、お好み焼き、当てもの、ジュースにビールなど、盛り沢山に楽しんでいただけたことと思う。

ここでは普段なかなか見ることが出来ない浄青会員の一面を知ることが出来、会員同士の親睦にも大いに役立った。

一方、震災以後身も心もすさんでしまっているのか、なかなか素直に楽しむことの出来なかったり、平気で嘘をついたりする子供にもでくわした。そ

のあたりの事も、私達のこれからの救援活動の宿題かも知れない。(山中)

(c)1997近畿ブロック浄土宗青年会救援委員会ボランティア実行委員会"JIVA"

(デジタル化：神戸大学附属図書館)

- 8月5日(土) 灘組 阿弥陀寺『神戸納涼盆踊り大会』(静岡浄青主催)
内容：模擬店協賛(ヨーヨー、かき氷、そうめん、くじ引き、花火等)、盆踊り
- 9月14日(木) 第3回理事会・第4回救援本部委員会(京都教区教務所)
- 26日(火) 第1回一周忌追悼念仏行脚実行委員会(京都・上徳寺)
- 10月23日(月) 第2回追悼念仏行脚実行委員会(神戸・ワシントンホテル)
- 12月7日(木) 第4回理事会・第5回救援本部委員会(京都教区教務所)
- 26日(火) 毎日新聞社災害救援センター『阪神大震災こども救援金』へ
全国からの義援金500万円を寄付(2回目)
- 27日(水) 第3回追悼念仏行脚実行委員会(ホテル・ニューアルカイツク)

平成8年

- 1月14日～17日 『阪神・淡路大震災一周忌追悼念仏行脚』知恩院を出発
中村康隆猥下より頂戴したお灯明を先頭に一路神戸へ
- 14日(日) 泊：大坂府島本町西福寺
- 15日(月) 泊：大阪府箕面市帝釈寺会館
- 16日(火) 泊：兵庫県尼崎市ホテル・ニューアルカイツク
- 17日(水) 全浄青救援センター主催、近ブロ浄青共催、浄土宗後援、尼崎市常楽寺で知恩院協
力による『阪神・淡路大震災一周忌追悼法要』厳修 法要後、東灘区西福寺まで念
仏行脚
- 午前5：30
- 午後3：00 東灘区西福寺にて一周忌法要
法要後、バスにてホテル・ニューアルカイツクへ移動、解散
- 19日(金) 兵庫教区・浄土宗・知恩院共催『阪神・淡路大震災物故者一周忌法要』厳修(神戸
午後1：30 文化ホール)



★ 兵庫教区一周忌法要（神戸文化ホール） ★

神戸 阿弥陀寺にて

バスで大挙参加してくれた静岡浄青のパワーには驚きました。被災地で盆踊りが出来、たくさんの人達に参加してもらって、棚経の最中に活動した甲斐がありました。（大島）

★

震災一周忌の法要で尼崎に宿泊の時、自らも被災し、今もボランティアをしておられる学生さんとお話しをしましたが、震災当時、僧侶として私達にしてほしかった事や出来た事は外から見て何だと思えますか、の問いに「お寺さんは、横にとっても沢山の連絡網を持っておいでですよー、その連絡網を通じて各地にこんな状況ですよ、こんなに被害があったんですよと知らせてほしい」と云われました。この事はまさに今の青年会に求められているのだと思います。（土方）

★

平成8年1月17日（水）

尼崎市常楽寺様での近ブロ浄青の（一周忌法要）に参列。その後の念仏行脚にも参加。

ほんの1日だけの参加ではあったが、全国の多くの浄青会員の熱意、浄青という組織のパワーを感じることができた。真に浄青らしい活動ではないかと思う。（山中）

★

総本山知恩院から被災地神戸へ「御光り」を届けるための念仏行脚。そして最終日17日には多くの回向をさせて頂きました。

1年間の救援活動の総決算でもあったこの活動は、改めて震災の凄じさを感じるものでした。一見何も無い空き地、沢山ある空き地、震災前には家があり、人が生活していたのでしょうか。またそこには手を合わす人の姿がありました。悲しくも素晴らしい行脚でした。（小林）

神戸 阿弥陀寺にて

静岡浄青とその一般青年会と一緒に、盆踊りを持って入ってくれた。近ブロ浄青も屋台テントを出して手伝った。素晴らしい活動であったが、一つだけ考えが違った。静岡の方々は初めての救援活動だったか、非常に固い思いを持っておられ、近ブロは慣れすぎていて、被災者と一緒になって楽しもうとした。ここにもまた一つ、ボランティアの流れを感じる事が出来ると思う。（山本）

★

一周忌法要

全国から思いのほか多くの参加者があり、浄青会員の阪神・淡路大震災の物故者及び被災者に対する篤い思いが感じられた。（伊藤）

★

1月19日（金）

兵庫教区主催の阪神・淡路大震災一周忌法要に参加のため、民谷奈良浄青事務局長と神戸市東極楽寺様

へ。近プロ浄青会員でおつとめの後、会場の神戸文化ホールまで念仏行脚。

文化ホールでの法要では、正直なところ人が多すぎたのと、慣れない壇上に座らされたことで落ち着かなかった。せっかくの見事な一周忌法要であるにもかかわらず、厳粛な気持ちにならず、私自身残念で申し訳なかった。(山中)

★

一周忌法要に参加

私は最終日だけでしたが、多くの方が京都から歩かれて大変だったと思います。ただ、私的意見としまして、コースを例えば、国道沿いばかりでなく、遠回りになりますが、大きな駅前や繁華街等、もっと人のたくさんいるところを通り、神戸の復興はまだまだと訴えてみてはどうかあと思います。(羽田)

兵庫教区一周忌法要	
式次第	
・開会の辞	
・浄土宗青年会念仏行脚 入堂	
・御門主親下 入堂	
・宗歌「月影」	
・献灯 献香 献華「今ささぐ」	
・四奉請	
・導師表白	
・開経偈	
・阿弥陀経(遺族代表) 菊の花 献華	
・撰益文	
・念仏一会	
・別回向	
・導師十念	
・光明撰取の御和讃	
・総回向偈	
・同唱十念	
・(導師転座)	
・授与十念	
・御門主親下 御垂示	
・浄土宗宗務総長御挨拶	
・総本山知恩院執事長御挨拶	
・兵庫教区長挨拶	
・「夢をなくさないで」斉唱	
・菊の花 献華	

(c)1997近畿ブロック浄土宗青年会救援委員会ボランティア実行委員会"JIVA"
(デジタル化：神戸大学附属図書館)